

## Ⅱ 中学校部会

# 国語科部会

### 研究主題

## 思考力を育てる言語活動の指導研究

### ～読み・考え・表現する授業づくり～

### 1 主題について

本主題を継続して4年目を迎える。学習材を説明的文章に限定して研究をしてきたが、思考力育成をねらった授業であれば学習材は問わないことを共通理解として、今年度も研究していくこととした。

### 2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月14日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月28日	第2回総合研究会 授業研究会（花岡中学校）

### 3 研究内容

#### (1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月28日（金）
  - ・会 場 花岡中学校
  - ・題材名 3年「生き物として生きる」
  - ・授業者 三浦 薫
- 「テクノロジーとの付き合い方」  
「テクノロジーと人間らしさ」

#### ① 授業者から

- ・研究主題に沿った授業内容を意識した。
- ・光村・東書にある3つの題材を比較する学習である。2つにしぼろうとしても文章量の違いからその比較は難しかった。しかし、3つの比較は時間的にはやはり厳しかった。
- ・ねらいに近付けなかったことは反省点であるが、様々な文章に触れることの少ない本校生徒にとってはよい機会であった。



【グループでの比較読みの活動】

#### ② 協議

- ・学習の積み重ねが随所に見られた。（ノート、学習習慣等）
- ・学習の流れを「例えば～」等で分かりやすく指示していた。
- ・書き手の立場（職業）が明確に示されていたため読みに役立っていた。
- ・グループでの活動は本授業の比較読みに有効であった。しかし、3つの題材は時間的に間に合わなかったようだ。
- ・主張を支える根拠となっているかどうかの判断基準があればよかった。例えば、根拠となる叙述を一文でつなげてみる手立ての提示など。
- ・時間的な問題を解決するために、単元構成の工夫をしてみてはどうか。既習を生かし、東

書の題材は1時間で取り扱うことも可能なのではないか。また、板書用のカードを教師が書いていたが、グループ内であらかじめ書かせておくとか、実物投影機を活用することも有効ではないか。

- ・時間的な改善点は挙げられるが、3つを比較したことで見えてくる違いがあったため有効であったと思われる。
- ・主張の妥当性の判断基準として、根拠の挙げ方の工夫や特徴などを明示すれば比較しやすいのではないか。また、自分の意見文を書く活動にも生かされていくのではないか。



【ワークショップ型での協議】

## (2) 指導助言 (中井 淳 指導主事)

- ・比較読みは新学習指導要領の目玉の一つとも言える。実生活に生きて働く国語の力が本授業に表れていた。市教研国語部会の目的が明確であるということでもある。
- ・協議にワークショップ型を取り入れたことに成果があった。ワークショップ型の協議では改善策まで示すことが大事であり、単なる批評で終わらないようにしたい。
- ・子どもたちの集中した雰囲気がよかった。子どもたちの目、机上の整理ともよかった。
- ・難しい論理的思考を厭わずに取り組んでいた。思考はじっくり味わわせることが大事。
- ・比較学習で大切にしたいことは、比べる内容、量、質が妥当かということである。本時では比較のためのシートもよく考えられていたが、比較する観点が多く、結果的に3つの文章をそれぞれ吟味するだけになってしまった。簡単に比較するには、既習事項を生かして考えさせたり、文章全体ではなく、ポイントをしばって比較させたりするとよい。例えば、主張と根拠の妥当性について○×で評価させてもよいであろう。また、本時では、何ををもって根拠を妥当と判断するのか、その評価基準も必要であった。さらに、グループ活動は適切な時間設定をしないと、課題解決まで至らないことが多いので、注意したい。
- ・単元の組み方として、言語活動を通して指導事項を学ばせることを意識すること。三次に意見文を書くという言語活動がある。そのために二次で3つの論文を比較することを理解させる。こうすることで子どもたちはテクノロジーについて課題をもつことができる。なぜ読むのか、なぜ書くのか、という単元の流れを大事にしてほしい。
- ・中学校は受検があるので常には無理だと思うが、内的な読みの力を身に付けなければいけない。本授業はそのためにも学ぶところが多く、各自の授業に生かせるものであった。
- ・指導案作成の際は、どの言語活動を使うのか明記する。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・比較読みの意義や指導の鍵となる考慮すべき点が明らかとなる授業提供となった。
- ・ワークショップ型の協議を取り入れたことで話し合いが活性化され、改善策まで深めることができた。

### (2) 課題

- ・事前研究会や題材の事前配布等を可能な範囲で行えれば、さらに深まりのある研究会となるであろう。